

現場の声 Real Voice

中野谷教育長に

いじめ防止の取り組みと
ICTを活用した教育に
ついて聞きました

●いじめの現状について

市内の小中学校のいじめの認知件数は、平成30年度は593件、平成31年度は651件、令和2年度は559件（4・5月が休校のために前年より少ない）となっており、学校では積極的ないじめの認知に努め、さまざまなトラブルも見逃さず適切に対応するようにしています。

近年の特徴としては、スマートフォンやオンラインゲーム機を持つ子どもが増えたことに伴い、インターネット上でのいじめ（SNSやゲームの中で、嫌なことを言われる、不快に感じる画像や動画を拡散するなど）が増えています。こうしたことから、学校でもネット問題に関する講習会を行うなど対応しているところです。県内でも、尊厳命が失われる事件が起きています。全ての子どもが、安心安全な学校生活を送るためには、いじめをなくすることが大切で、大きな課題と捉えています。

●どのようないじめ対策行っていますか？

特に思春期は、「親に心配をかけたくない」「自分の弱さを見せたくない」などといった思いや自分の気持ちをうまく伝えられない子どももいます。そのような子どもに「弱さをみせることは恥ずかしいことではないんだよ」「悩みや困りごとを話すことは大切なことだよ」と伝え、SOSの発信の仕方について教えています。SOSの発信の仕方には、担任の先生に直接相談するだけでなく、毎日書く日記に何か記号（例えば「×」）を書くだけでも良いと



なかの なし やすし 教育長
中野谷 康司 教育長

伝えていきます。また、担任の先生以外に相談したい人を選び相談できる「マイサポーター制」を導入し、学校の中でこれまで以上に相談しやすい環境作りを取り組んでいます。

「マイサポーター制」によって、図書館の先生や部活動の顧問の先生、校長先生や教頭先生に相談する子もいます。また、スクールカウンセラーによる相談や、相談ポストを学校に設置するなど、より多くの子どもたちの悩みを拾い上げる取り組みも行っています。



子どもたちの 安心安全な 学校生活を守りたい